

古典文法トレーニング 長文課題 品詞分解と現代語訳

大問二（出典：『古今著聞集』）

◎品詞分解（非活用語は初出のみで、名詞は基本的に非表示。同色の助詞は同内容であることを示す。）

豊前国格助(係体)の 住人太郎入道格助(係体)といふ者ありけり。男なりける時、常に猿格助(係体)を射けり。ある日、山格助(係体)を過ぐる格助(係体)に、大猿ありけり格助(係体)は、木格助(係体)に追ひ登せて射たりけるほどに、過たず、かせぎにて射てけり。すでに木より落ちむとしけるが、何とやらん格助(係体)（※1）、物を木の股格助(係体)に置くやうにするを見れば、子猿なりけり。己格助(係体)が傷を負ひて土格助(係体)に落ちむとすれば、子猿格助(係体)を負ひたるを助けんとて、木の股格助(係体)に据ゑむとしけるなり。子猿はまた母格助(係体)につきて離れじとしけり。かく度々すれども、なほ子猿つきければ、もろともに地格助(係体)に落ちにけり。それより長く猿格助(係体)を射ることをば留めてけり。

※1：「にやあらむ」の転。「に」は断定「なり」の連用形、「む」は推量「む」の連体形である。「くであるだろうか」と訳す。ちなみに「何とやらん」は挿入句である。

◎現代語訳（↓『ステップアップノート30 古典文法トレーニング』参照）